

ヤングケアラー実態調査に関する一次分析報告書

令和4年12月

栗山町福祉課
栗山町教育委員会

I 調査の概要

【調査目的】

本調査は、栗山町におけるヤングケアラーの実態を把握することで、その現状や課題、ニーズなどを把握し、今後の支援体制の構築や新たな社会資源を開発するための基礎資料として実施した。

【調査対象】

栗山町内の小学校5年生及び6年生、中学校全学年、高校全学年による全数調査

【調査方法】

各学校に調査票を配布し、直接回収を行う。

【調査時期】

令和4年11月

【回収結果】

配票数 528件 回収数 459件 回収率 86.9%（有効回答数 435件）

学校/項目	配票数	回収数	有効回答数	回収率
栗山小学校	136	126	126	92.6%
角田小学校	18	17	12	94.4%
継立小学校	22	22	21	100%
小学校全体	176	165	159	93.8%
栗山中学校	240	190	174	79.2%
栗山高校	112	104	102	92.9%
合計	528	459	435	86.9%

【回答者属性】

（1）学 年

回答者の学年と回答数は下記のとおりとなった。

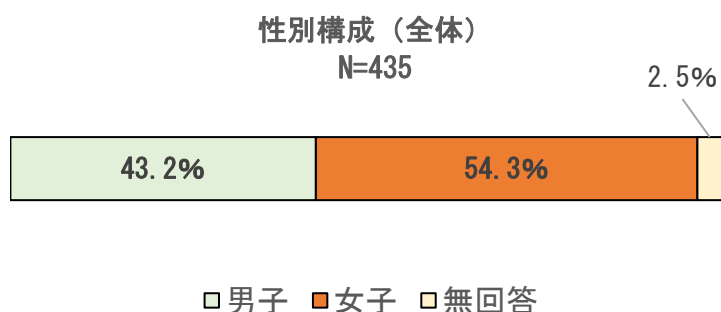
設問：あなたの学年を教えてください。

学 校	5年生	6年生	無回答	合計
小学校	78	80	1	159

学 校	1年生	2年生	3年生	無回答	合計
中学校	59	42	73	0	174
高 校	23	36	42	1	102

2) 性 別

回答者の性別構成は、全体では「男子」43.2%、「女子」54.2%となり男女比では女子が10.8ポイント多い結果になった。



【報告書について】

- (1) 集計は小数点第2位を四捨五入している。そのため回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能にした複数回答の場合は、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」とし、「該当数」を「n」で表記する。

Ⅱ 調査結果

【ヤングケアラーの町内における総数】

栗山町におけるヤングケアラーの総数は 21 名（うち高校生の町外 2 名を含む）で、全体の 4.8% となった。学校別では小学校が 5.7%。これは全道平均 4.7% と比べると 1.0 ポイント高く、全国平均 6.5%（対象：小学 6 年生）からは 0.8 ポイント低い。

中学校では 4.6%。全道平均（対象：中学 2 年生）7.2% と比べて 2.6 ポイント低く、全国平均（対象：中学 2 年生）5.7% からは 1.1 ポイント低い。

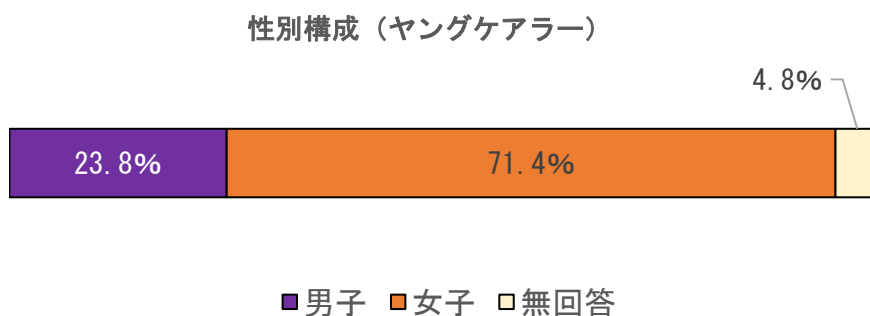
高校では 3.9%。全道平均（対象：全日制 高校 2 年生）5.8% と比べて 1.9 ポイント低く、全国平均 4.1% からは 0.2 ポイント低い結果となった。

所属	ヤングケアラー		合計	%	(参考) 北海道	(参考) 全国
	(町内)	(町外)				
栗山小学校	6 人	0 人	6 人	4.8%		
角田小学校	1 人	0 人	1 人	8.3%		
継立小学校	2 人	0 人	2 人	9.5%		
小学校全体	9 人	0 人	9 人	5.7%	4.7%	6.5%
栗山中学校	8 人	0 人	8 人	4.6%	7.2%	5.7%
栗山高校	2 人	2 人	4 人	3.9%	5.8%	4.1%
全体	19 人	2 人	21 人	4.8%		

【性 別】

ヤングケアラーの性別構成は、「男子」23.8%、「女子」71.4% になった。ヤングケアラーは、女子が家族のケアを担う傾向にあることがわかった。

設問：あなたの性別を教えてください。(n=21)



【同居家族の属性】

同居家族の属性を見てみると、全体では「母親」が最も多く 95.6%であり、「父親」82.1%、「きょうだい」80.0%と続く。ヤングケアラーも同様の傾向にあるが、全体と比較すると、「きょうだい」は85.7%と5.7ポイント高く、「祖母」は28.6%と7.0ポイント高い結果となり、きょうだいや祖母と同居している傾向がある。

設問：あなたが一緒に住んでいる人を教えて下さい。（複数回答）

回答／件数	全体 N=435	%	ヤングケアラー n=21	%
母親	416	95.6%	19	90.5%
父親	357	82.1%	16	76.2%
きょうだい	348	80.0%	18	85.7%
祖母	94	21.6%	6	28.6%
祖父	65	14.9%	4	19.0%
その他	10	2.3%	1	4.8%

【ケアの対象者】

ヤングケアラーのケアの対象者を尋ねると、「きょうだい」が最も多く 61.9%。次に「母親」が19.0%、「祖父」が14.3%という結果になり、ヤングケアラーは「きょうだい」の世話をを行うケースが多いことが分かった。

設問：あなたがお世話をしている人がいれば、すべて教えて下さい（複数回答 n=21）

回 答	件数	%	北海道		
			小学校	中学校 (2学年)	高校 (全日)
きょうだい	13	61.9%	47.2%	38.8%	28.5%
母親	4	19.0%	8.7%	4.7%	7.9%
祖父	3	14.3%	19.9%	3.7%	4.5%
祖母	2	9.5%	27.0%	8.2%	10.1%
父親	0	0.0%	5.1%	1.7%	2.2%
その他	0	0.0%			
無回答	2	9.5%			

【ケアの理由】

ヤングケアラーにケアの理由を尋ねると、最も多いのが「まだ小さい（幼い）ため」という回答が最も多く 61.9%になった。その他に「高齢（65歳以上）のため」、「認知症（物事を覚えられない、忘れてしまう）ため」が 14.3%という結果になり、ケアの対象は、多世代に渡ることがわかった。

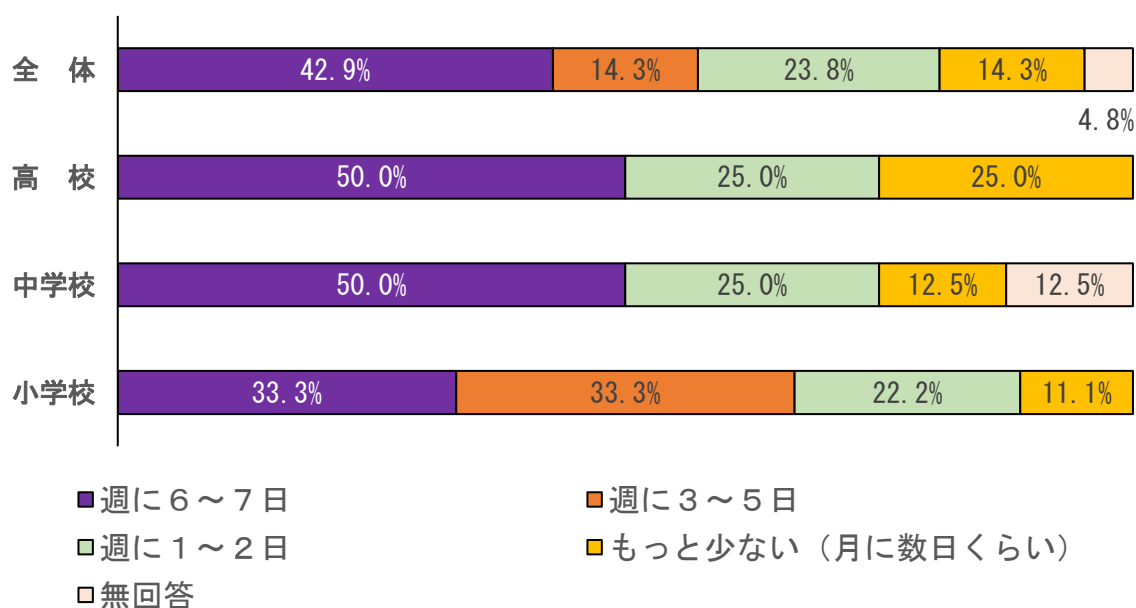
設問：あなたがお世話をしている理由を教えてください（複数回答 n=21）

回 答	件数	%
まだ小さい（幼い）ため	13	61.9%
高齢（65歳以上）のため	3	14.3%
認知症（物事を覚えられない、忘れてしまう）ため	3	14.3%
身体や心などに「障がい」があるため	2	9.5%
食事や服を着たりすることが、自分一人では、できないため	1	4.8%
お酒などを止められなくなっているため	0	0.0%
病気やけがのため	1	4.8%

【ケアの日数と時間】

ヤングケアラーの家族をケアする日数について、一週間のうちの日数を尋ねると 42.9%の者が「週に 6～7日」と、ほぼ毎日ケアを行っているという回答した。また、具体的なケア時間¹は「わからない」との回答が多数を占め、掴みにくいという実情がわかった。

設問：あなたがお世話している日数を教えてください。（n=21）



注 1 ケア時間に関しては、具体的な時間を回答した者は、登校日は 10 時間という回答が 1 件、休校日は 3 時間という回答が 1 件だった。

【ケアを始めた年齢】

ヤングケアラーにケアを始めた年齢を尋ねると、小学校、中学校、高校とケアの開始年齢が上昇する傾向があった。平均は9.4歳であり、小学校中学年頃から家族のケアを担い始める傾向にある。

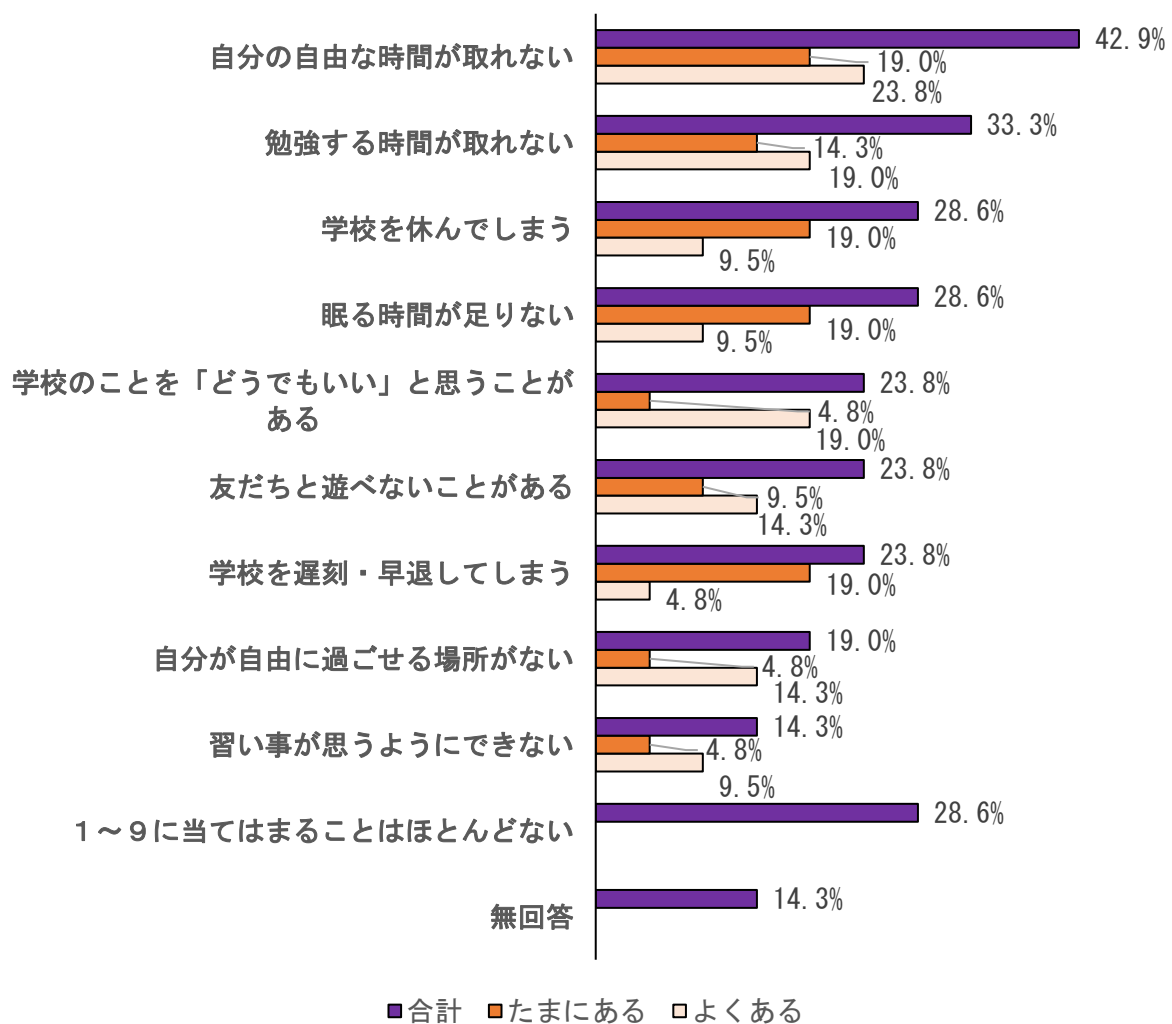
設問：お世話は、あなたが何才くらいの頃から、していますか。

設問／学校	小学校	中学校	高校	平均
() 才くらいの頃から	8.0	10.5	13.7	9.4

【ケアによる生活の影響】

家族のケアを行うことで、ヤングケアラーの生活にどのような影響があるのかを尋ねたところ、「自由な時間が取れないこと」が42.9%を占め、それ以外にも、「勉強する時間が取れない」が33.3%、「学校を休んでしまう」、「眠る時間が足りない」が28.6%という結果になり、生活や学業に大きな影響を与えていることがわかった。

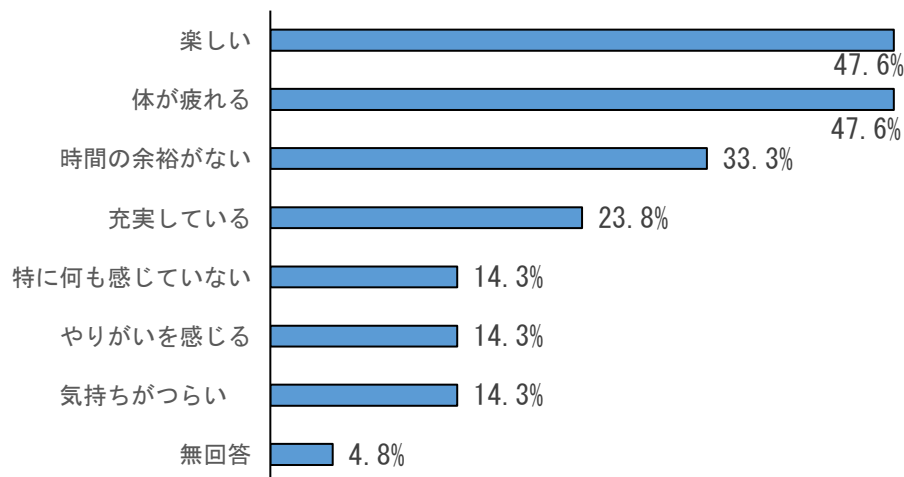
設問：あなたは、お世話をしていて、次のようなことはありますか。当てはまる番号のすべてに○をつけてください。(複数回答 n=21)



【ケアの受け取り方】

ヤングケアラーは日常的なケアにより、「体が疲れる」と回答した者が 47.6%、「時間の余裕」がないと回答した者が 33.3%とケアのための疲労感や時間的な制約を受ける者が多い。一方で、そのケアが「楽しい」47.6%、「充実している」が 23.8%という回答も多く、ケアに対しての自己肯定感や目的意識が高いことが伺える。

設問：あなたは、お世話をされていて次のことを感じますか。（複数回答 n=21）



【相談の有無及び対象】

ヤングケアラーは、ケアのことの相談を他者に行うことが少なく 71.4%が「ない」と答えた。なお、「ある」と答えた者のうち、相談先の回答（3件）は、全て「家族」であり、学校や相談支援機関に相談した例はなかった。

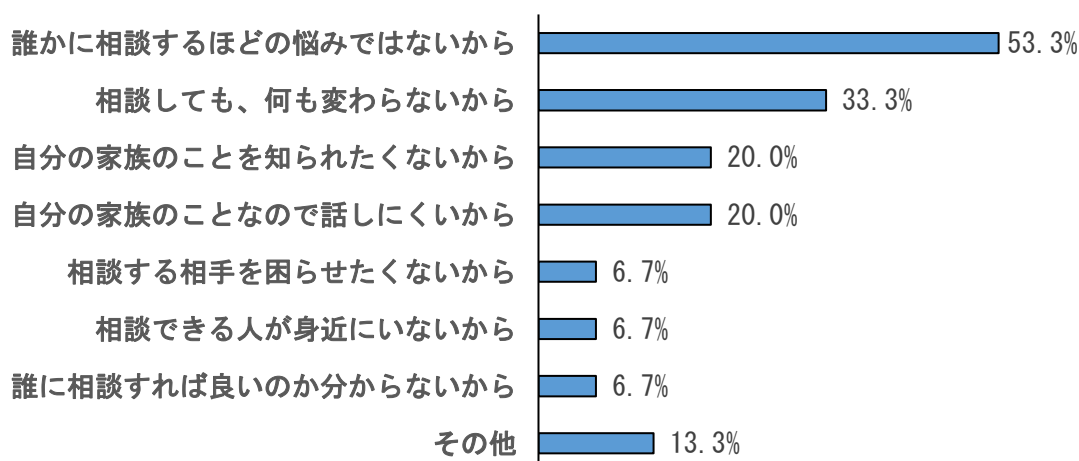
また、相談していない理由としては、「誰かに相談するほどの悩みではないから」が 53.3%と大きな悩みとして感じていない、または気づいていないという回答が半数以上を占めた。次に、「相談しても何も変わらないから」が 33.3%と、ケアに関する相談してもヤングケアラー自身の生活環境に変化はないと受け止めている。また、「自分の家族のことを知られたくないから」や「自分の家族のことなので話にくいから」がそれぞれ 20.0%の回答があり、家族のことは個人的なことで他者に相談しにくいという回答もあった。

設問：あなたは、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。（n=21）



■ ある ■ ない □ 無回答

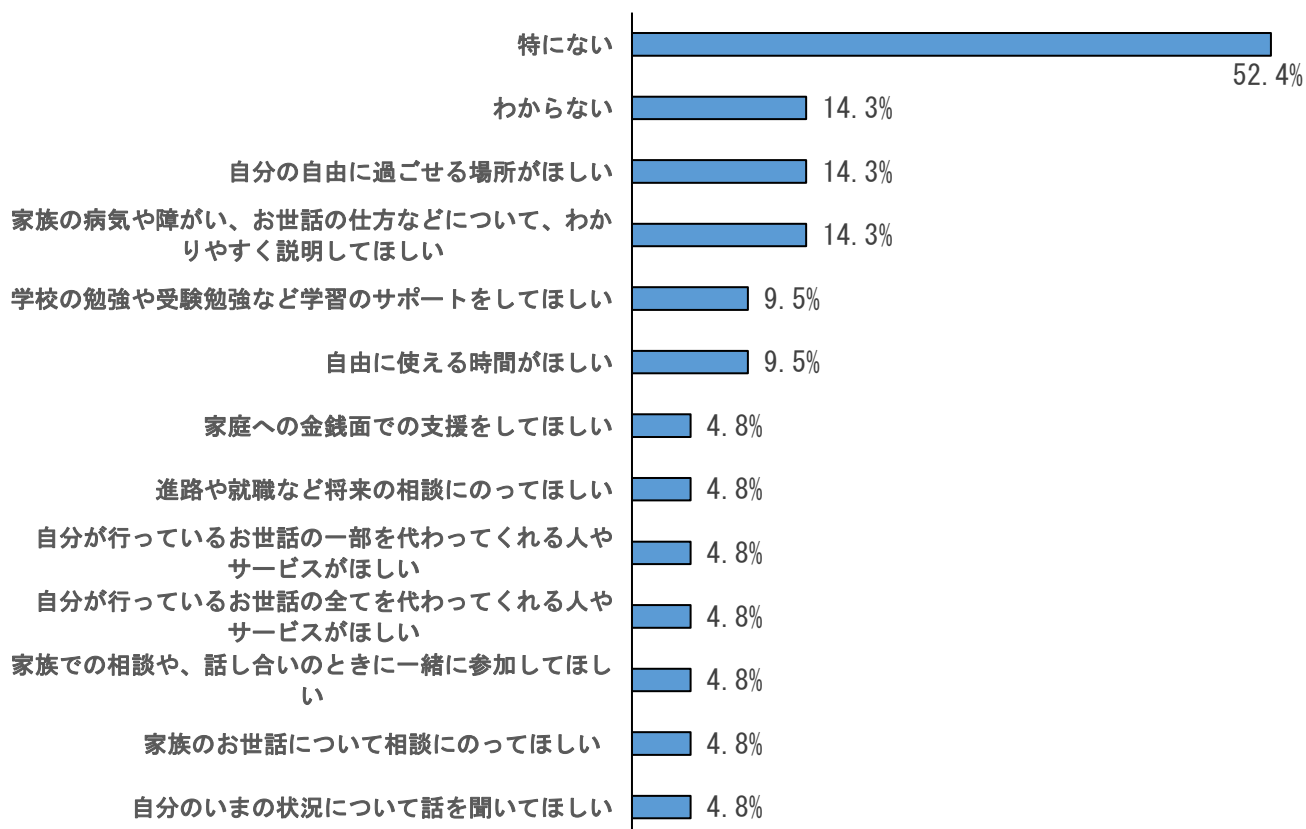
設問：相談していない理由を教えてください。(n=21)



【ケアに関して支援してほしいこと】

ヤングケアラーが家族のケアを行っている中で、支援してほしいことは、「特にない」が52.4%、「わからない」が14.3%と、具体的にイメージが付きにくい、支援を受けるほどのケア内容ではないと感じていることがわかった。また、「自分の自由に過ごせる時間が欲しい」との回答や、「家族の病気や障がい、お世話の仕方などについて、わかりやすく説明してほしい」との回答がそれぞれ14.3%あった。

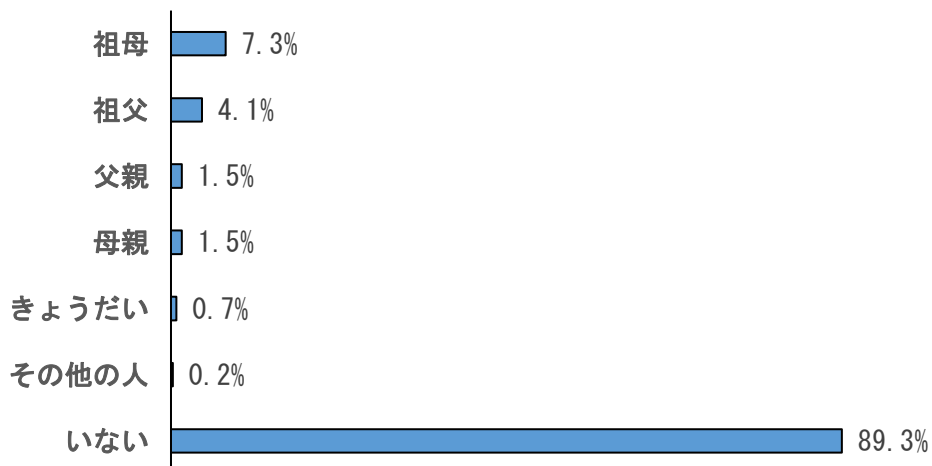
設問：あなたは、お世話していることに関して、学校の先生や周りの大人に対して支援してほしいことはありますか。(複数回答 n=21)



【今後のケア対象者の有無】

現在、家族にケアの対象者が「いない」と回答した者に、近いうちにケアの対象になる者がいるかどうかを尋ねたところ、「祖母」が7.3%、「祖父」が4.1%となり、祖父母の高齢化に伴い、ケアをする可能性があると感じていることがわかった。

設問：近いうちに、お世話をする必要のある人がいれば、全て教えてください。（複数回答 n=413）

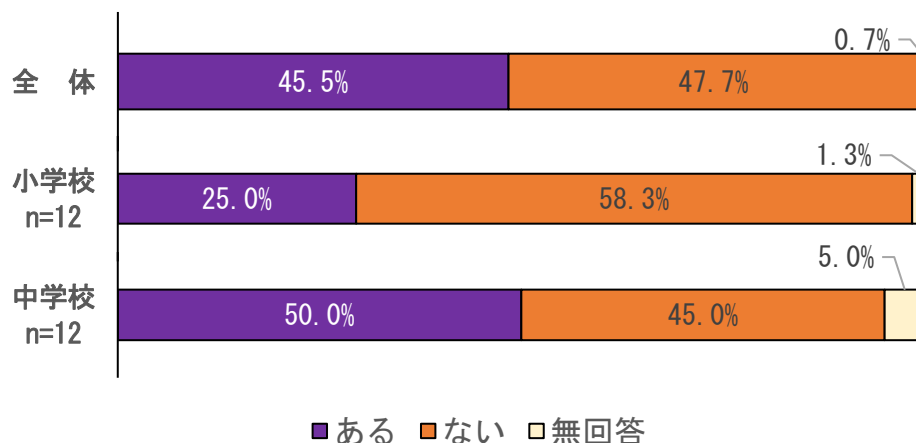


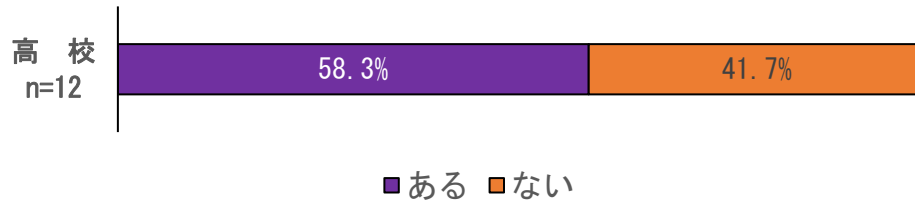
【ケアへの不安】

今後のケア対象者が「いる」と回答した者のうち、ケアをすることに不安が「ある」と回答した者は、全体の45.5%、「ない」と答えた者は47.7%となった。なお、「ある」と回答した者は、小学校25.0%、中学校50.0%、高校58.3%となり、年齢が上がるにつれ不安感が強くなる傾向がある。

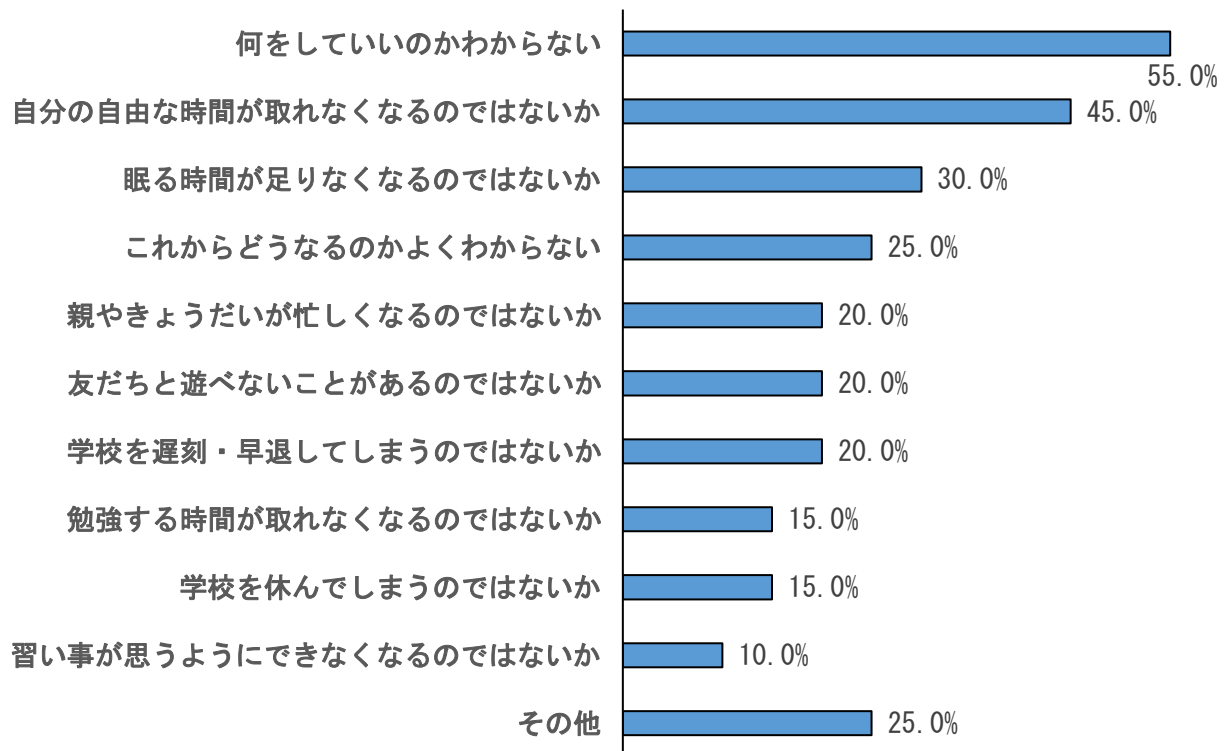
また、「ある」と回答した者に、その理由を尋ねると、「何をしてよいのかわからない」が55.0%と先にある見えない不安や、具体的にイメージがつかないことへの不安が全体の半数を超えた。次に、「自分の自由な時間が取れなくなるのではないか」が45.0%、「眠る時間が取れなくなるのではないか」が30.0%とケアを行うことで時間的な制約があり、子どもの生活に変化が起きることへの不安を回答する者が多いことがわかった。

設問：お世話をすることに不安がありますか。（n=44）





設問：お世話をすることを不安に思う理由は何ですか。（複数回答 n=20）

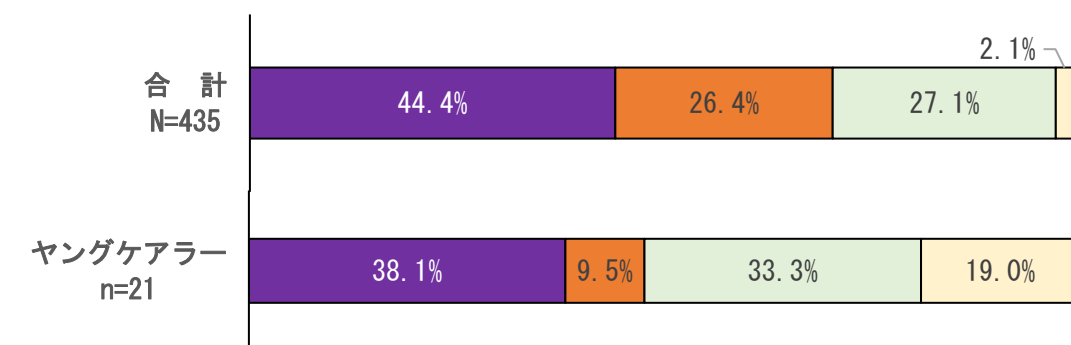


【ヤングケアラーの認知度】

回答者全てに、「ヤングケアラー」の言葉の認知度を尋ねた。全体では、「聞いたことがあり、内容も知っている」が44.4%、「聞いたことがあるが、よく知らない」が26.4%となり、70.8%の回答者が、「ヤングケアラー」の言葉自体を聞いたことがあるという結果になった。これは、「ヤングケアラー」の言葉が子どもたちに浸透してきていることがわかる。なお、学校別だと、小学校が67.3%、中学校が82.7%、高校が55.9%と学年が上がるごとに、認知度が上昇するわけではなく、結果にはばらつきがあった。

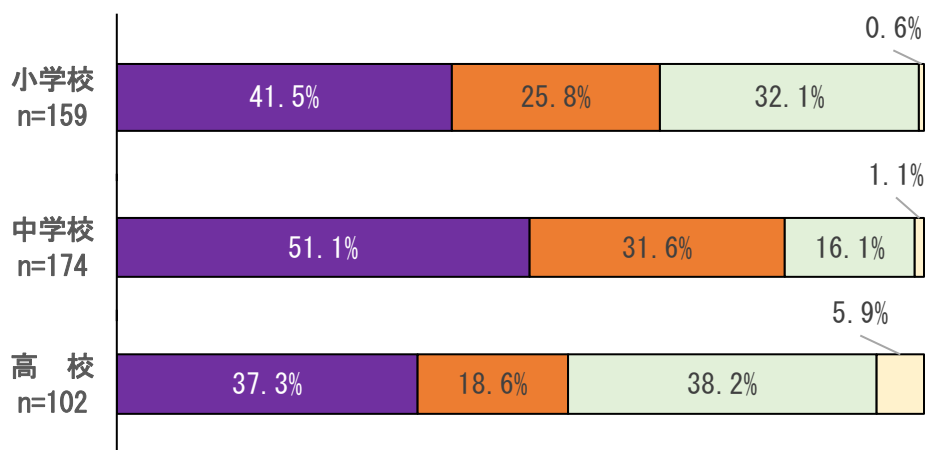
一方、ヤングケアラーに回答を絞り込むと、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」が38.1%、「聞いたことがあるが、よく知らない」が9.5%であり、ヤングケアラーの言葉の認知度は、47.6%となった。これは全体と比べると、23.2ポイント低い結果であり、ヤングケアラー自体は、その言葉に対しての認識が低いことがわかった。

設問：「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。



- 聞いたことがあります、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 聞いたことはない
- 無回答

学校別



- 聞いたことがあります、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 聞いたことはない
- 無回答

【生活での悩み事・困りごと】

日常生活での悩み事を回答者全てに尋ねると、「将来（進路）のこと」が 26.4%、「学校の成績のことが 20.9%、「自分に自信が持てないこと」が 19.8%、「友だち関係のこと」14.7%の結果になった。

これをヤングケアラーに絞ってみると、回答順位は、全体の結果とほぼ同様の傾向にあるが、「学校の成績のことが 52.4%（全体より 31.5 ポイント増）、「将来（進路）のことが 42.9%（全体より 16.5 ポイント増）、「自分に自信が持てないこと」が 28.6%、「友だち関係のこと」が 23.8%の結果になった。

ヤングケアラーは、その置かれている家庭環境から、特に学校の成績や将来のことに悩みを抱えていることがわかった。

設問：普段の生活で悩んだり、困っていることはありますか。（複数回答）

